優秀な人材を育成するための奨学金制度を創設しては

森　　亘　議員（至誠）

教育長　平等に学力をつけることが課題

質問　優秀な人材を育成するための奨学金制度を創設してはどうか。そこで、教育長、町長に次の所見を伺う。

問①　学業・スポーツ・芸術等で特に優れた能力を有する児童・生徒への支援は、現状の制度で十分足りていると考えているのか。

教育長　充足しているかの判断は難しい。また、実態調査は行わない。

問②　まちづくりの観点からも、優秀な人材を町が主体的に育成し、社会に送り出していこうという考えはないか。

教育長　平等に学力をつけることが現状の課題であり、社会貢献を期待するまでの考えはない。

問③　そうした制度を創設しようとした場合、懸案となることは何か。

教育長　個別の能力を客観的に公平な判断をする基準を設けることは困難。また、支援措置が個人的な利益の一面を持つため、町民の理解が得られるかが課題。

中学校のクラブ活動（二中）

町独自の少子化対策を問う

上野　勝　議員（自民）

町長　行動計画を基本として推進

質問　少子化の進展は国の基本を揺るがしかねない問題でありその対策に、国を挙げて取り組んでいる。町としても地域の実情にあった独自の施策を進めるべきである。

問①　小・中学生への一割の医療費助成が10月から始まるが、無料化への移行は。

町長　現段階では無料化への移行は考えてない。

問②　認証保育所の増設で待機児をゼロにすべきでは。

町長　来年4月から石畑保育園の指定管理者制度の導入にあわせて入所定員の拡大も予定しており、私立保育園や認証保育所にも定員の拡大を要請している。

また、新たに認証保育所開設の話もあり、これらにより待機児の解消が図れると考えている。

問③　町独自の少子化対策を打ち出すべきと考えるがその計画は。

町長　次世代を担う子供を育てる家庭を地域社会全体で支援する「瑞穂町次世代育成支援行動計画」を基本として着実な推進を図る。

箱根ケ崎地区の認証保育所

車椅子でも歩けるまちづくりを

近藤　浩　議員（改革）

町長　バリアフリー化に努めたい

質問　車椅子でも自由に歩ける町とは、高齢者や子供など誰にとっても、安全安心に歩ける町である。しかし、町にはまだ不備なところも多く、もっと積極的に改善するべきと考えるが、次の点について町長の所見を伺う。

問①　公共施設などのバリアフリーについて。

問②　歩道の改善について。

町長　公共施設や歩道、いずれについても、法律や都条令を遵守し、バリアフリー化を進めている。既存の施設については、老朽化や町民の要望に沿い、改修の機会をとらえ、バリアフリーに努めていく。

問③　カラー舗装、バウンド道路など、車のスピード抑制について。

町長　カラー舗装化は、危険度を勘案し順次実施する予定。ハンプ舗装（バウンド道路）については、安全面を考慮し慎重に対処していく。

バリアフリー化されている元狭山コミュニティセンター

こんな質問もありました

「障害者自立支援法への対策は。」

町長　可能な限り支援に努める。

町立石畑保育園の民間委託を再度問う

谷　　四男美　議員（住民）

町長　導入に自信を深めている

質問　私は前回も人にとって一番光り輝く大切な時期である保育行政は公的機関が直接関与して、保護者や保育士の生の声のやりとりの中で高め、その中で民間保育園にも良い影響を与えていくことを述べたが、長期総合計画の中では、幼児教育について深く掘り下げて論議していないことは悲しい。民間委託のメリットとあるべき保育とは何かについて再度伺う。

町長　むさしの保育園は民間委託となって3年が経過したが、保護者から高い評価を受けている。これらの実績から、石畑保育園についても導入に自信を深めている。現在、保育に対する社会的ニーズが多様化し、保育制度の改革が進む中、利用者の要望に対応するとともに効率的な経営が求められていると考えている。なお、指定管理者導入後も町立保育園の設置者としての責任を全うしたい。

民間委託となっているむさしの保育園

こんな質問もありました

「栗原町旧焼却施設跡地の環境対策は。」

町長　法律の規定にのっとり適切に対応する。